

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

平成29年7月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																										
アップルスポーツカレッジ		平成5年12月6日	萬歳 憲重	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8 (電話) 025-286-5191																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																										
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地 (電話) 025-210-8565																										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																									
文化・教養	文化・教養専門課程	バスケットボール専攻学科		平成19年文部科学省 告示第20号	-																									
学科の目的	現在、精神的豊かさを取り戻すことが求められる我が国の現状を踏まえ、国境や文化・年齢を超えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化していく生涯スポーツ及び健康の育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっている。また今後の日本スポーツ界発展の為に、国際化する社会をグローバルに見つめ時代の変化に柔軟に対応できる能力をもつスポーツスペシャリストの育成と、その基盤となる地域スポーツ振興が今まで以上に望まれていることは明らかである。これらから本校は、スポーツ、教育、文化活動を通して、日本スポーツ界の発展並びに、地域、国家社会の発展に寄与することを目的とする。具体的な活動として、バスケットボール競技で、ALLJAPAN、全国クラブ選手権、全国専門学校選手権大会の上位入賞を目指し、将来的にはプロチーム、実業団で活躍できるプレーヤーを目指す。また、競技を通じてコーチングの知識・経験を得て指導者を養成し、バスケットボール業界を活性化させる人材を育成する。																													
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	3422時間	574時間	2488時間	0時間	0時間																								
	昼間	360時間 <small>単位時間</small>																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
45人	23人	0人	1人	1人	2人																									
学期制度	■前期:4月10日～9月7日 ■後期:9月11日～1月22日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A～Eの評価sでEは単位不認定																										
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏季:7月28日～8月27日 ■冬季:12月21日～1月10日 ■学年末:2月17日～3月31日		卒業・進級条件	進級基準・卒業基準は、年間54単位以上の修得																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談・保護者との連携等		課外活動	■課外活動の種類 ・部活動 野球部・バスケットボール部・サッカー部・バレーボール部 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ライザップ、スタジオ515、ゼビオスポーツ㈱、ミズノスポーツサービス、㈱タツシユ、いろは保育園、はあとふるあたご、グリーン体操 ■就職指導内容 4期に渡り、就職研修を行い、意識付け、適正診断、求人検索、履歴書の書き方、スーツの着こなし、身だしなみ、面接練習等 ■卒業者数 145 人 ■就職希望者数 135 人 ■就職者数 135 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.1 % ■その他 ・進学者数: 9人 ・プロバスケットボール選手 1人 (平成 28 年度卒業者に 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に 平成29年5月1日 時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急法救急員</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	救急法救急員	③	3	3																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																											
救急法救急員	③	3	3																											
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 平成28年4月1日時点において、在学者301名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者294名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的な理由、目的意識、学習意欲の低下、精神的な問題、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 成績低下者のフォロー、面談、外部カウンセリング、保護者連携等		■中退率 2.3 %																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: ○有・無 ※有の場合、制度内容を記入 NSGカレッジリーグ無利子奨学制度 高等学校新卒者 年額30万円、高等学校新卒者以外 年額42万円 返還方法 卒業後5年以内 毎月均等返済 ■専門実践教育訓練給付: ○有・無 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年実績なし																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ○有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													

当該学科の
ホームページ
URL

<http://www.applesports.jp/course/sportstrainer.html>

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 学外有識者、企業、業界団体等の意見を元に専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 教育課程編成委員会を設置し、意見を聴衆し、学科に係わる教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
村山 哲二	ベースボール・チャレンジリーグ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
池田 拓史	榊新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
早川 貴章	榊新潟バスケットボール	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
稲田 昌朗	榊アルス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
大橋 亮	eighty9 ベースボールショップ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
田中 義雄	新潟アルビレックスランニングクラブ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
長崎 俊也	新潟アルビレックス女子バスケットボールクラブ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
萬歳 憲重	アップルススポーツカレッジ 学校長		
石井 和昭	アップルススポーツカレッジ 副校長		
本間 圭一	アップルススポーツカレッジ 教務部長		
老田 聡孔	アップルススポーツカレッジ 健康スポーツ科科長		
佐野 英朗	アップルススポーツカレッジ トレーナー科科長		
鹿間 宏海	アップルススポーツカレッジ スポーツビジネス科科長		
豊嶋 茂樹	アップルススポーツカレッジ 陸上競技専攻科科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

- 第1回 平成28年11月10日 17:30～18:30
 第2回 平成28年11月21日 18:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 学科教育目標・目的の理解・学科科目の目標、授業内容の理解、業界動向、外部環境に関する理解と反映、教授・学習・評価課程に関する協議、卒業・就学・進学に関する情報共有、地域社会との交流に関する情報共有、研修に関する協議、教育課程改善に関する協議とその反映、その関連の協議。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を目指し、現場に必要とされる即戦力の人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ① 実習の事前研修(知識・実技・業界ルール等)
- ② インターンシップ実習

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
バスケットボールⅠ・Ⅱ	技術・体力・脚力の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を学	新潟プロバスケットボール

(別途、以下の資料を提出)

- * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>企業・業界団体の基礎知識・技術はもちろんの事、最新の業界動向・市場を企業側と学校担当者は密に連携をして、情報収集及び最新の知識・技術を体得していく。学校担当者は業界側と同じ着眼点やレベルで学生指導ができるように努める。また学校側として職員レベルに合わせて計画的に研修を遂行し、人材育成に努める。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナー専任教員ミーティング(日本体育協会) ・健康運動実践指導者 実技評価委員会研修会(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団) <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教員フォローアップ研修
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナー専任教員ミーティング(日本体育協会) ・健康運動実践指導者 実技評価委員会研修会(公益財団法人 健康・体力づくり事業財団) <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教員フォローアップ研修
<p>(別途、以下の資料を提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者、地域住民等や業界企業の学校関係者から委員を招集し、学校の自己評価結果を基に協議し、その改善策を学校運営に反映していくこととする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

業界関係者・卒業生から委員会を編成し会議を実施。H25年度の学校自己評価書、学校向上アンケート結果を基に審議し、意見を聴衆した。今後の計画に反映させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
内藤 真理子	榊新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	実習先
植野 翼	榊新潟アルビレックスランニングクラブ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	実習先
蟻浪 亮	榊新潟プロバスケットボール	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
萬歳 憲重	アップルススポーツカレッジ		
石井 和昭	アップルススポーツカレッジ		
本間 圭一	アップルススポーツカレッジ		
鹿間 宏海	アップルススポーツカレッジ		

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

[URL:http://www.applesports.jp/common/pdf/2014/h26_subject02.pdf](http://www.applesports.jp/common/pdf/2014/h26_subject02.pdf)

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

下記のガイドラインを基に情報公開し、業界の進む方向性と学校教育の方向性が合致していることが望ましい。よって目標・計画を企業側とチェックすることで、ミスマッチや温度差を少なくしていく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	無し
(11)その他	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

[URL:http://www.applesports.jp/disclosure.html](http://www.applesports.jp/disclosure.html)

(別途、以下の資料を提出)

- * 情報提供している資料
- ・学校自己評価報告書
- ・学校関係者報告書

事務担当責任者	フリガナ	イシイ カズアキ	所属部署	アップルススポーツカレッジ
	氏名	石井 和昭	役職名	副校長
	所在地	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8		
	TEL	025-286-5191	FAX	025-286-5192
	E-mail	ishii.kazuaki@nsg.gr.jp		

(備考)

- ・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バスケットボール専攻科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パソコン実習Ⅰ	W O E D 3 級を取得するための対策授業	1 年 通 年	60			○		○			○	
○			パソコン実習Ⅱ	E X C E L 3 級を取得するための対策授業	2 年 通 年	60			○		○			○	
○			H R	自己能力や自己啓発を促すための授業	1・2・3 通 年	180			○		○			○	
○			コミュニケーション学	コミュニケーション能力検定初級を取得するための対策授業	1 年 前 期	30			○		○			○	
○			検定対策Ⅰ・Ⅱ	ビジネス文章・サービス接客検定対策授業	1・2 年 通 年	60			○		○			○	
○			検定対策Ⅲ・Ⅳ	ビジネス文章・サービス接客検定対策授業	1・3 年 通 年	60			○		○			○	
○			検定対策Ⅴ・Ⅵ	パワーポイント・ホームページ制作検定対策授業	1・4 年 通 年	60			○		○			○	
○			トレーニング科学	メディカルチェックの基礎知識。生活、健康調査法、体力測定機器に関する基礎知識論、体力評価法等	1 前	20			○		○			○	
○			競技者育成システム論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、チームマネジメント、競技スポーツとIT	1 前	12			○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バスケットボール専攻科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーチングⅠ	スポーツ指導の基礎、スポーツ指導の原則、指導形態、スポーツ指導の実際評価の方法とその活用等	1前	12		○			○			○	
○			スポーツ心理学	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学等	1後	20		○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置等	1後	10		○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅱ	アスリートの健康管理、内科的疾患と対策、外傷、障害と対策、アスレティックリハビリテーションと計画等	1後	20		○			○			○	
○			スポーツ社会学Ⅰ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	6		○			○			○	
○			スポーツ社会学Ⅱ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	8		○			○			○	
○			スポーツ経営学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	1後	12		○			○			○	
○			スポーツ栄養学	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	1前	10		○			○			○	
○			発育発達論Ⅰ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	1前	6		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
(留意事項)	1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バスケットボール専攻科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			トレーニング論	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得と獲得課程	1前	6		○			○			○	
○			運動生理学	運動器のしくみと働き、呼吸循環器系の動きとエネルギー供給、スポーツバイオメカニクスの基礎等	2後	12		○			○				○
○			スポーツ行政学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	2後	6		○			○				○
○			発育発達論Ⅱ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2後	10		○			○				○
○			コーチングⅡ	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任、スポーツと人種、プレーヤーと指導者の望ましい関係等	2前	14		○			○				○
○			バスケットボールⅠ・Ⅱ	技術、体力、脚力の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	1通年	480					○	○			○ ○
○			ウェイトトレーニングⅠ・Ⅱ	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	1通年	120					○	○			○
○			コンディショニングトレーニングⅠ・Ⅱ	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とバスケットボールに必要な動作を習得する	1通年	60					○	○		○	
○			バスケットボール理論Ⅰ・Ⅱ	バスケットボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	1通年	60		○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
(留意事項)	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バスケットボール専攻科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			バスケットボール戦術Ⅰ・Ⅱ	バスケットボールの戦術を国内、国外カテゴリー分け隔てなくあらゆる分野から学ぶ	1 通 年	60			○			○		○	
○			英会話Ⅰ・Ⅱ	バスケットボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	1 通 年	60		○			○			○	
○			バスケットボールⅢ・Ⅳ	技術、体刀、脚刀の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	2 通 年	480					○	○			○
○			ウェイトトレーニングⅢ・Ⅳ	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	2 通 年	120					○	○			○
○			コンディショニングトレーニングⅢ・Ⅳ	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とバスケットボールに必要な動作を習得する	2 通 年	60					○	○		○	
○			バスケットボール理論Ⅲ・Ⅳ	バスケットボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	2 通 年	60		○			○			○	○
○			バスケットボール戦術Ⅲ・Ⅳ	バスケットボールの戦術を国内、国外カテゴリー分け隔てなくあらゆる分野から学ぶ	2 通 年	60			○			○		○	
○			英会話Ⅲ・Ⅳ	バスケットボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	2 通 年	60		○			○			○	
○			バスケットボールⅤ・Ⅵ	技術、体刀、脚刀の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	3 通 年	480					○	○			○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バスケットボール専攻科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ウェイトトレーニングV・VI	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	3 通 年	120			○	○			○		
○			コンディショニングトレーニングV・VI	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とバスケットボールに必要な動作を習得する	3 通 年	60			○	○			○		
○			バスケットボール理論V・VI	バスケットボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	3 通 年	60		○		○				○	
○			バスケットボール戦術ⅢV・VI	バスケットボールの戦術を国内、国外カテゴリーに分けてなくあらゆる分野から学ぶ	3 通 年	60		○		○				○	
○			英会話V・VI	バスケットボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	3 通 年	60		○		○					○
○			STEP UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・ 2 前	72				○	○				○
○			SKILL UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・ 2 後	72				○	○				○
○			STEP研修I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・ 2 前	48				○	○		○		
○			日本救急法・蘇生法	日本赤十字社公認の救急法救急員資格を取得するために、救急時の看護の基本的知識とその技術について学ぶ	1 前	16				○	○				○
合計				科目	3 4 2 2 単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
(留意事項)	1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。